

セミナーへのご参加、そしてアンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

Q1「オルタナティブ」については、資金調達手段の多様化や資金調達の構造変化、昨今の市場環境にともない、ますます重要な投資対象になると思われますが、どのように管理するのが適切とお考えでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

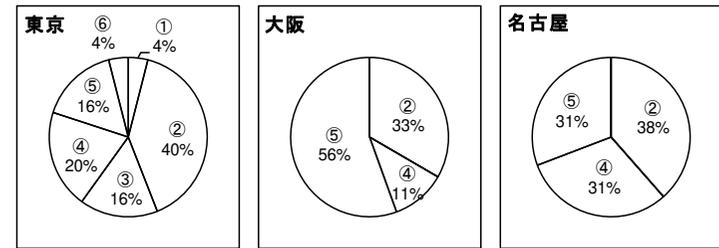
	東京	大阪	名古屋	合計
① オルタナティブという曖昧な分類は避け、伝統的資産の枠組みで管理すべき。	1名	0名	0名	1
② 伝統的資産では管理しきれないので、「オルタナティブ」を一つの資産として管理することは必要。	10名	3名	5名	18
③ 「オルタナティブ」の組み入れ比率が一定程度以下であれば「オルタナティブ」として分離管理する方がよい。	4名	0名	0名	4
④ 「オルタナティブ」という分類には意味が無いとは思いますが、実務上の手間や都合を考慮すると、この分野は必要。	5名	1名	4名	10
⑤ 今後益々種類は増え、重要性も増すので、「オルタナティブ」という分類は廃止すべき。	4名	5名	4名	13
⑥ その他	1名	0名	0名	1
合計	25	9	13	47

【その他回答】

東京: リスク等測定可能な方法で再分類する。(特にヘッジファンド)

【複数回答】

東京: ①⑤・・・1名



【③上限比率】

東京

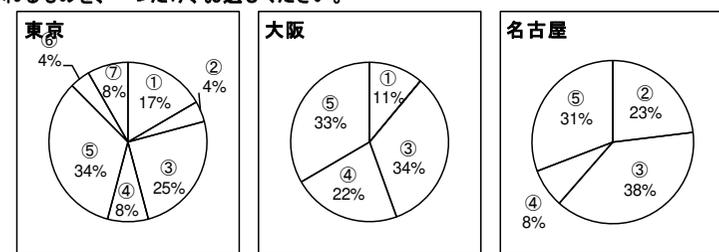
- ・10%: 1名
- ・30%: 1名
- ・20%: 1名
- ・無回答: 1名

Q2 投資対象としてプライベート物を考える場合、市場(パブリック)物との比較において、どのようにお考えでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 詳細を理解するのが難しく、かつ流動性の制約も大きいので、消極的にならざるをえない。	4名	1名	0名	5
② プライベート物は確かに魅力的だが、社内の規則や慣習の問題で、黒字化まで数年間も持ち続けることはできない。	1名	0名	3名	4
③ 金融危機の際に、プライベート物は影響が少ないので、一定程度のプライベート物への投資は必要。	6名	3名	5名	14
④ 過度な時価評価の弊害を避けられるので、積極的に投資する。	2名	2名	1名	5
⑤ 相対の交渉を通じた価値の創出が可能なので、投資対象として魅力がある。	8名	3名	4名	15
⑥ その他	1名	0名	0名	1
⑦ 無回答	2名	0名	0名	2
合計	24	9	13	46

【その他回答】

東京: N/A



Q3 ベンチャーキャピタルは、全くの新しいスタートアップの企業や創業間もない企業に投資しますが、そこでは、合理的な事業キャッシュフローの推計は困難であるはずで。さて、ベンチャーキャピタルは、責任ある投資家にとって、適格な投資対象であり得るのでしょうか。一番近いと思われるものを、一つだけ、お選びください。

	東京	大阪	名古屋	合計
① 事業キャッシュフローの推計は難しくても、事業モデルの妥当性や合理性は評価し得るのだから、適格な投資である。	4名	2名	4名	10
② 案件ごとに投資の適格性を議論することはできない。複数投資することで、統計的な制御が成り立つ限りでのみ、適格な投資である。	3名	0名	2名	5
③ 様々な経営支援活動(ハンズオン)によって、積極的にリスク管理できるという条件の下でのみ、適格な投資である。	8名	4名	5名	17
④ 創業直後の投資は、適格性を欠く。事業キャッシュフローが読める段階に達した企業に、投資は限定すべきである。	5名	3名	2名	10
⑤ その他	1名	0名	0名	1
⑥ 無回答	3名	0名	0名	3
合計	24	9	13	46

【その他回答】

投資家の立場として検討したことがないためよくわからないが、適格性が判断できないものに投資はできない。難しいと思ってしまう。

